

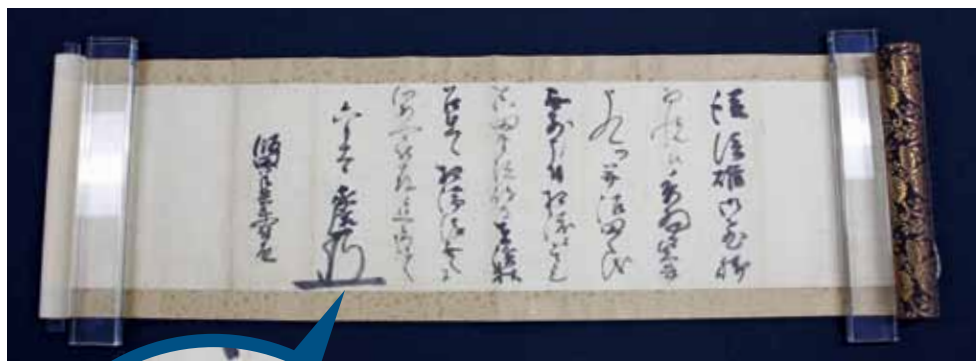
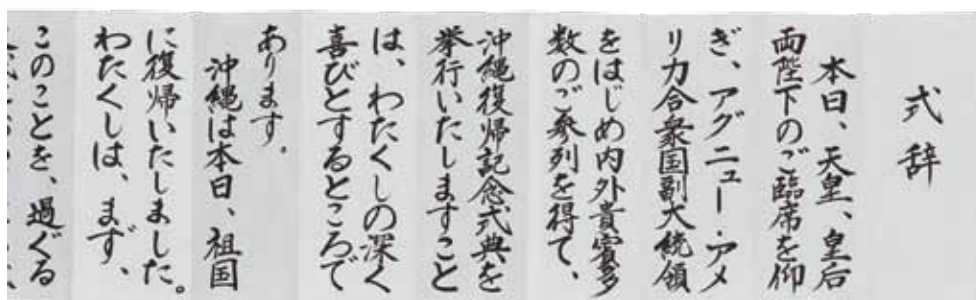
# 国立公文書館ニュース

Vol. 36

2023.12～2024.2

｜特集｜

## 貴重な歴史資料を後世へ 国立公文書館への寄贈・寄託



｜連載｜

- 今号のアーカイブ…………… 5
- 情報の泉…………… 6
- 先取り！展示会情報…………… 7
- アーキビストに聞く…………… 8

記録を守る、未来に活かす。

# 貴重な歴史資料を後世へ

—国立公文書館への寄贈・寄託—

国立公文書館では、個人の方等から、我が国の歴史的事実に関する記録として現在及び将来の国民が利用するにふさわしい資料の寄贈又は寄託を受けています。



ここでは、これまでに寄贈された資料のいくつかをご紹介します。



## 佐藤榮作日記

佐藤榮作首相の昭和 27 ～ 50 年の日記 (40 冊)。佐藤首相のご遺族より寄贈された『佐藤榮作関係文書』に含まれています。(平成 23 年寄贈)



佐藤榮作日記 31 【請求番号：寄贈 02101100】

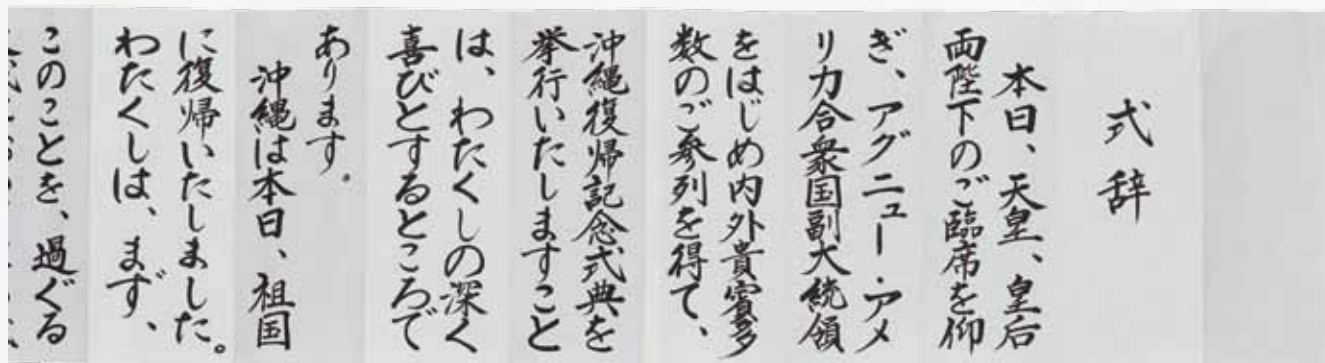
特別展で展示  
しました



## 沖縄復帰記念式典における佐藤首相の式辞

昭和 47 年 5 月 15 日に行われた沖縄復帰式典での、佐藤榮作首相による式辞の原稿。佐藤榮作内閣で首席秘書官を務めた楠田實が所蔵していました。

(令和 2 年寄贈)

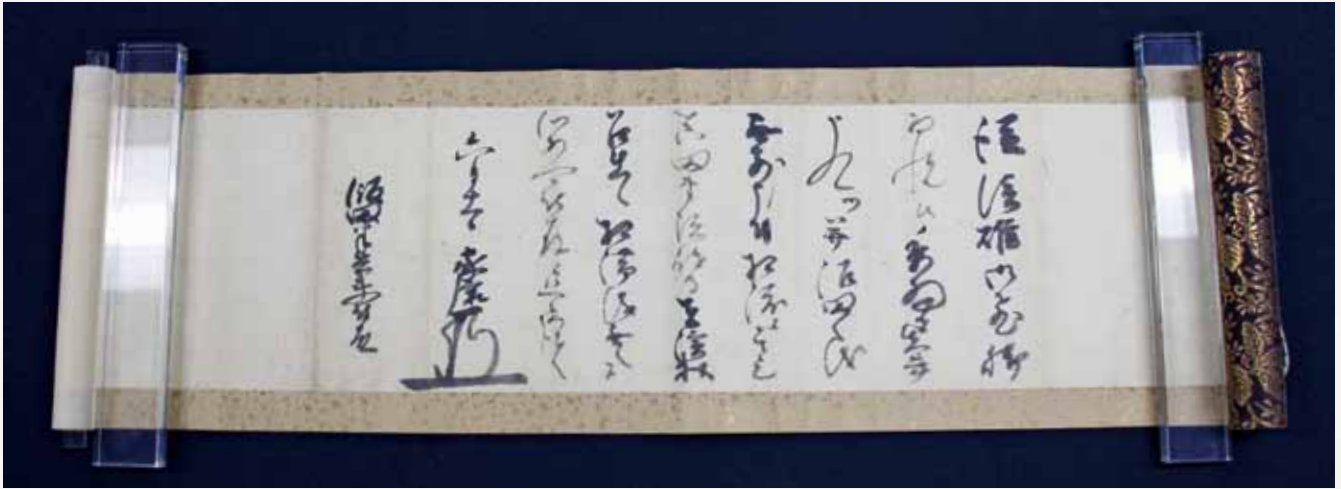


『楠田實旧蔵文書』【請求番号：寄贈 03912100】

## 飯田半兵衛宛徳川家康書状

織田信雄の家臣として徳川家康への取次（交渉担当）を担っていた飯田半兵衛に宛てられた、徳川家康発給の書状。飯田家（岡山藩池田家家臣）に伝来したものです。（令和5年寄贈）

当館所蔵の江戸幕府の  
文書に関係



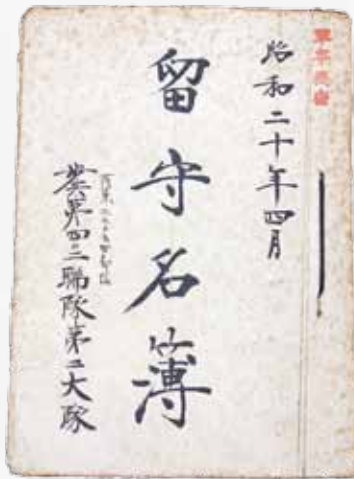
『飯田家旧蔵文書』【請求番号：寄贈 04306100】

## 留守名簿

第140師団歩兵第402連隊第2大隊の『留守名簿』（陸軍の人事記録文書）。同隊に所属していた方のご遺族より寄贈されました。（令和3年寄贈）

## 韓国併合関係記録

戦前植民地の統治事務・監督などを行っていた拓務省が、韓国併合に関する外務省の電報等を筆写したものの。（令和3年寄贈）



厚生労働省から  
移管された  
『留守名簿』に関係



『藤田稔旧蔵文書』  
【請求番号：寄贈 03989100】



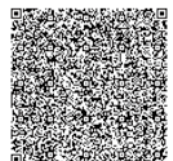
『飯島稔旧蔵文書』【請求番号：寄贈 04007100】



こうした資料に心当たりのある方、次のページへ！

当館では、令和5年3月末現在、**49件 9,360冊**の寄贈・寄託文書を受け入れています。

資料の目録は、国立公文書館デジタルアーカイブで公開しています。



## Q どのような文書を寄贈又は寄託できますか？

A 当館では、次のような受入基準を設けています。

- ・国の重要な意思決定にかかわった国務大臣等の理念や行動を跡付けることができる重要な情報が記録されたもの
- ・館が現に保存する特定歴史公文書等に記録された情報を補完することができる重要な情報が記録されたもの
- ・国の機関の統合、廃止又は民営化等によって歴史公文書等が継承されることがなく、散逸するおそれが極めて高いもの

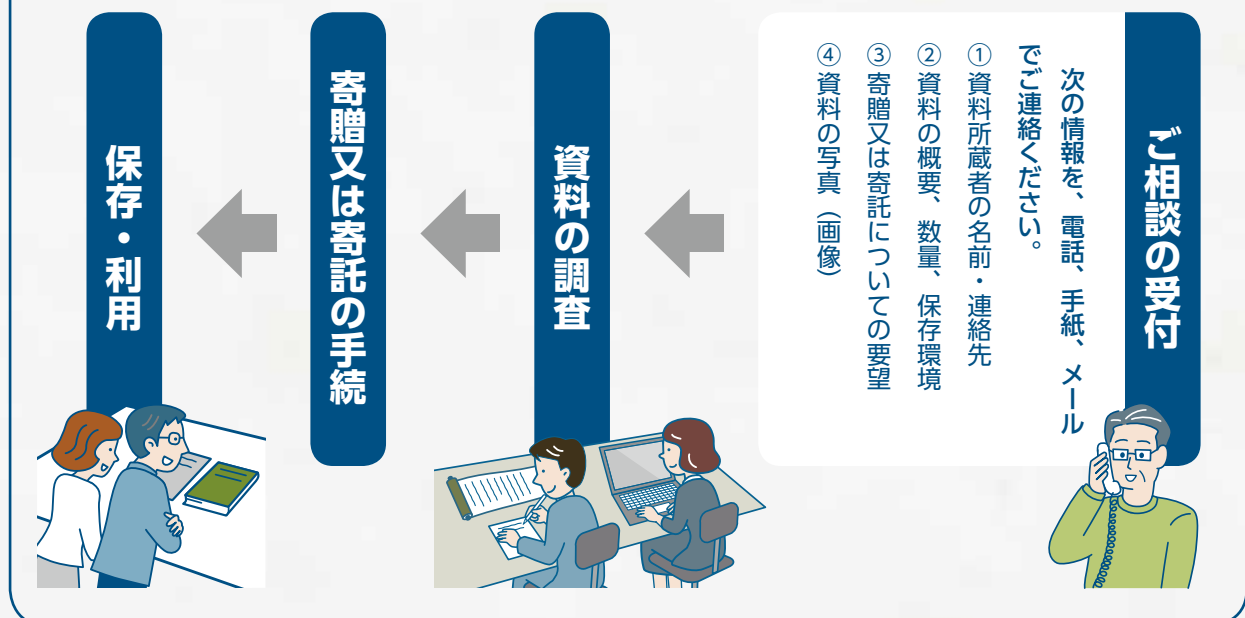
## Q 寄贈又は寄託をした資料は、国立公文書館においてどのように利用されるのですか？

A 寄贈又は寄託の手続き終了から原則として1年以内に資料の目録が公開されます。閲覧室（東京本館）において資料の閲覧、写しの交付（複写）、展示などにより利用されることになります。

## Q 受入基準に該当するかわからない資料の相談はできますか？

A 年代や内容が不明の文書でも、お電話やメールなどで資料についての情報を聞き取ったり、画像等により資料の概要を把握しますので、まずご相談ください。

### ご相談から寄贈又は寄託、保存・利用までの流れ



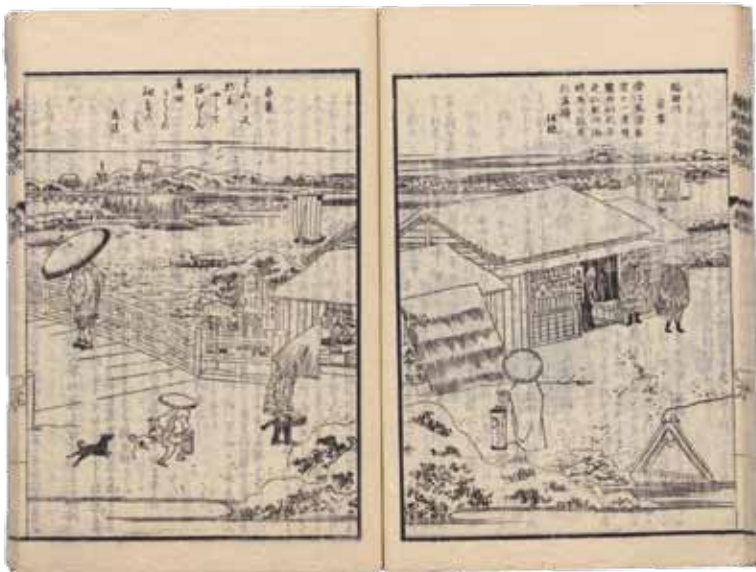
お問い合わせ先

国立公文書館 業務課資料収集係

住所：〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3番2号

電話：03-6684-8446（直通） メール：kizo@archives.go.jp





## 江戸歳事記

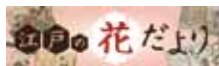
齋藤月岑<sup>さいとうげっしん</sup>編著、長谷川雪巨<sup>はせがわせつたん</sup>図画、長谷川雪堤<sup>はせがわせつてい</sup>補画。

天保9年(1838)刊。江戸の年中行事を1月～12月まで月日順で紹介した書。別名「東都歳事記」。江戸の寺社や名所を実地調査して記述したもので、江戸の年中行事、風俗、民俗を知る上で貴重な資料です。齋藤月岑(1804～1878)は、江戸時代後期の江戸神田姪子町の名主。全5冊。

画像は、隅田川での雪見の風景。資料の左側中央には屋形船が見えます。月見と同じように船を浮かべて雪を眺めることもありました。

【請求番号：184-0012】

デジタル展示  
「江戸の花だより」



デジタルアーカイブ



## 薩長土肥四藩主による

### 版籍奉還の上表

明治2年(1869)1月、毛利敬親<sup>もうりたかちか</sup>(長州)、島津忠義<sup>しまづただよし</sup>(薩摩)、鍋島直大<sup>なべしまなおひろ</sup>(肥前)、山内豊範<sup>やまうちとよのり</sup>(土佐)の各藩主は、「版籍奉還」(天皇へ版〈土地〉と籍〈人民〉を返還すること)を願い出、他藩主もそれに倣い同様の上表を差し出しました。これは、すべての土地と人民は天皇のものとする「王土王民」の考えに基づいたものでしたが、混乱もなく行われたのは、各藩主が、版籍を奉還しても政府から再交付されると考えていたためと言われています。

同年6月以降、ほとんどの旧藩主は、旧藩の知藩事<sup>ちはんじ</sup>に任命されました。しかし、知藩事には、旧来の大名による領地支配とは違い、非世襲の地方行政官として、政府直轄地と同様の政策を行うことが求められました。

【請求番号：公00123100】



デジタル展示  
「近代国家日本の登場」



デジタルアーカイブ



「デジタル展示」

<https://www.archives.go.jp/exhibition/past.html>  
東京本館の展示会を再構成し、当館HPで公開しています



「国立公文書館デジタルアーカイブ」

<https://www.digital.archives.go.jp/>  
当館所蔵資料の目録の検索や画像の閲覧などができます





## ICA アブ Dhabi 大会 2023

令和5年10月9日から13日まで、国際公文書館会議 (International Council on Archives, ICA) の大会がアラブ首長国連邦 (UAE) の首都アブ Dhabi の国立展示場において開催され、当館も参加しました。

本大会は、「知識社会を豊かにする (Enriching Knowledge Societies)」を総合テーマに、約140の国・地域から、アーカイブズ関係者ら、3300人以上が参加し、それぞれの取組の発表、活発な意見交換が行われるとともに、国際的な交流が図られました。フランスワ・オランド前フランス共和国大統領やシェイク・ナヒヤーン・ビン・ムバーラク・アール・ナヒヤーン UAE 寛容共存大臣等による基調講演のほか、専門プログラム、ワークショップなどの多彩なセッションで構成されました。また、アーカイブズ関係機関や企業等の展示ブースなどが設けられました。

当館は、日本の国立公文書館として、ICA 総会へ

参画したほか、メインホールで開催された「革新的なデジタル記録管理」のセッションにおいて、我が国におけるデジタルアーカイブや電子公文書の保存、国の行政文書の電子的管理の取組、今後の当館におけるデジタル推進の方向性などについて八日市哲生デジタル推進室長から報告しました。

また、今大会のホストである UAE 国立図書館公文書館のアブドゥラ・マジド・アール・アリ館長を、当館山谷英之理事が表敬訪問し、開催に当たったご尽力に謝意を述べ、親善を図ったほか、市内にある同館施設を訪問し、デジタル技術を活用し、UAE の建国のあゆみなどを紹介する展示ホールなどを視察しました。

今回の大会は、令和7年10月に、スペイン・バルセロナで開催される予定です。



開会式の様子



当館から発表の様子



UAE 国立図書館公文書館 アブドゥラ・マジド・アール・アリ館長表敬



UAE 国立図書館公文書館展示ホールの様子

## ふらっとツアーのご案内 (令和5年12月～令和6年3月)

当館概要説明後、バックヤード(閲覧室、修復室、書庫設備)を見学し、常設展を観覧するツアーを開催しています。(所要時間: 1時間程度)

事前申込不要、参加費無料です。ぜひご参加ください。

### 【開催日】

令和5年 12/7 (木)  
令和6年 1/25 (木)  
2/8 (木)  
3/7 (木)

### 【開始時間】

各日いずれも 13:30～



## 新商品「ダブルポケットファイル博物図」

令和5年8月より、「ダブルポケットファイル博物図」を好評販売中です。A4(見開きA3)サイズ。明治6年(1873)に文部省が刊行した掛図「博物図」第1図・第2図をモチーフとしています。ファイル内面には、資料の一部を拡大表示して配置しました。鮮やかに描かれた果物や植物を、お手元でじっくりご覧ください。東京本館・つくば分館のショップでご購入いただけるほか、郵送販売にも対応しています。



ダブルポケットファイル博物図  
500円(税込)





## 令和5年度第3回企画展 「みんなで食べよう —公文書でえがく学校給食—」



開催時間：午前9時15分～午後5時  
期間中無休・入場無料・予約不要

### ▶ 小学校児童ノ衛生上処置方

大正12年(1923)10月15日、文部次官から関東大震災罹災地の地方長官に対して、児童の衛生状態に配慮するよう通牒が出されました。

第一項では、栄養状態の良くない児童に対して、学校給食などの対策を講じて回復に努めるよう求めています。画像は、通牒の内容や発出を決定した際の決裁文書で、国が学校給食を奨励した、最も早い時期の文書です。

【請求番号：昭59文部02518100】



### ▶ 学校給食法

昭和29年(1954)、学校給食法が公布、施行されました。第二条では、学校給食の目標として、学校生活を豊かにし、社交性を養うこと、食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ることなどが規定され、第三条では、学校給食は小学校・当時の盲学校・聾学校・養護学校に通う児童に実施するものと定められました。画像は、学校給食法の御署名原本です。

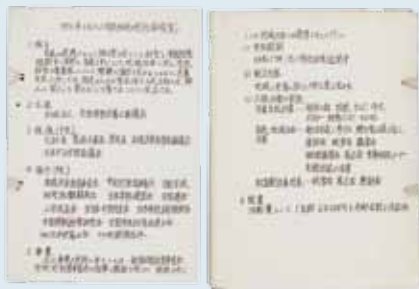
【請求番号：御35609100】



### ▶ 郷土食を生かした学校給食の実施について

昭和58年(1983)、文部省は、社団法人全国学校栄養士協議会が主催する、郷土食を生かした学校給食の実施を後援することを決定し、体育局長から各都道府県教育委員会教育長に協力を依頼しました。画像は、同会が主催する取組の実施要領案です。家庭を中心とした地域社会に対し、学校給食の重要性について理解や協力を求め、児童生徒に対しては郷土に関心を寄せる心を育てることなどに役立てるといった取組の趣旨や事業内容が書かれています。

【請求番号：平22文科01081100】



令和6年(2024)は、学校給食法(昭和29年法律第160号)が昭和29年(1954)に公布、施行されて70年となります。  
我が国における学校給食の起源は明治20年代とされていますが、国による全国的な取組が始まるのは昭和戦前期のことでした。本展では、当館所蔵資料を中心に、戦前から行われていた学校における食事の提供や栄養状態の改善にはじまり、戦後の学校給食法の制定、その後の学校給食の広がりや時代を反映した変化をたどります。

## 12～2月の東京本館開館情報

※最新の開館情報については当館HP等をご確認ください。

	12月	1月	2月
展示室 〔1階〕	「病と生きる—江戸時代の疫病と幕府医学館の活動—」 ～12/17		「みんなで食べよう—公文書でえがく学校給食—」 1/20～2/25
基本展示「日本のあゆみ」	* 開室日：月曜日から土曜日、展示会開催期間中の日曜日 * 閉室日：12/24(日)、28(木)～1/4(木)、7(日)、8(月祝)、1/14(日)		
閲覧室 〔2階〕	* 開室日：火曜日～土曜日(日曜日、月曜日、祝日は閉室) * 時間：午前9時15分～午後5時(入室・当日閲覧受付は午後4時30分まで)		



Vol.7

アーキビストに聞く

認証アーキビストに  
仕事の醍醐味などを  
インタビュー

認証アーキビストとは



## 国立公文書館が架け橋となり、 連携の輪を様々な機関に広げていきたい



国立公文書館 公文書専門官（研修連携担当）  
島林 孝樹さん

私

は大学院時代に国際政治学を研究する傍ら、講師として学部生・大学院生を対象としたレポート・論文の指導に従事していました。そんな折、大学院を修了する年に当館が職員を募集していることを知り、大学院で身に付けた調査研究能力を活かせるのではないかと思い応募しました。

入館後は評価選別業務を担当しました。当初は覚えることの連続で、特に行政機関や独立行政法人等の職員を対象とした研修の講師をつとめた際は、とても緊張したことを今でも鮮明に覚えています。その後、調査研究業務担当を経て、現在は研修連携業務を担当しています。

研修連携業務では、当館が主催する研修の企画・実施のほか、主担当として全国にある



当館が主催する研修の風景

公文書館等との連携業務を行っています。例えば、当館では毎年、全国の公文書館の館長等が一堂に会し、共通のテーマについて協議する全国公文書館長会議を開催しており、その企画・実施を担当しています。また、新たに公文書館の設置に向けて準備を進める地方公共団体等からの求めに応じて当館職員を派遣して支援するなど、連携の内容は多岐にわたります。

業務を行う際、特に意識していることは関係機関が何を実現したいのか、しっかりとコミュニケーションをとりニーズを汲み取ることです。コロナ禍でオンライン会議が普及したことで遠方の方とのやり取りがスムーズになりました。その一方で、対面の場を設けることで、よりお互いの理解が深まることもあります。そのため、都度最適な手段を検討してコミュニケーションをとるよう意識しています。また、最近では、連携の対象も広がってきています。例えば、当館では現在、小・中・高等学校や大学・大学院等の教育機関とも連携を進めています。今後も連携の内容、手段、対象など様々な要素を踏まえ、連携の取組みを進めてまいります。

当館も公文書館の一つとして、多くの方々からの支援や協力で事業が成り立っています。今後も全国の公文書館等との連携を進めるための架け橋となり、より積極的に連携を進めるとともに、機関同士の出会いや交流の場を提供していければと思っています。



「国立公文書館 友の会」  
会員募集中！

詳しくは  
こちらから



ホームページ



国立公文書館ニュースweb版

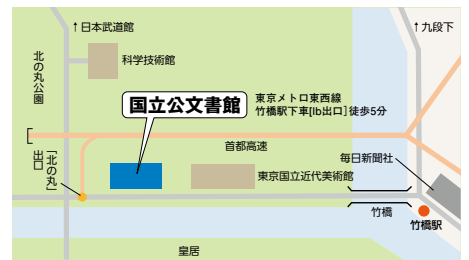


X (Twitter)



Facebook

国立公文書館  
アクセス



【東京本館】 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3番2号  
電話03-3214-0621(代表) FAX 03-3212-8806  
【つくば分館】 〒300-4246 茨城県つくば市上沢6番6号  
電話029-867-1910(代表) FAX 029-867-1939